

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

■変わる社会 面白い古代史 人間は猿から進化したのか？そもそも進化というけれど、進化をする必要がなければしないものです。では何故進化に至ったのか。猿人が出現（約 700～600 万年前）するまでは「猿」である。猿が猿人になるまでも相当長い期間です。変わるという行為は、基本的には「変化一反応」のメカニズムです。つまり、何か変わらざるを得ない変化が生じたのです。通常変化に対処する方法は 3 つです。「対応」「適応」「順応」です。

これは変化に対する抵抗の大きさです。変化が小さければ「順応」します。一方であまり大きければ「仕方がない」とあきらめるのも順応です。「適応」は、自身が持ち得る能力の範囲で対処することです。「対応」は、攻撃か撤退のように抵抗を含めた行動となります。

そこで、何が起きたのでしょうか。地球は有史以来、温暖化や寒冷化を繰り返しています。このような変化が生じると生態系にも変化が生じます。元来、猿は遊動動物で、定住生活をしていません。つまり、状況に応じて移動しながら生活しています。ところが気候変動により、対処を早くしなければならぬ事態が起きますと、猿だけでなくあらゆる生物・動物が生きるための変化を強要されます。順応だけでは済まされません。しかし適応出来ない猿もいるし、対応する猿もいるでしょう。

となると、早い移動や外敵も多くなり、早く移動出来ない猿や危険回避のために、すばやく木に登れない猿は、取り残されるか外敵にやられてしまいます。この取り残された猿こそが、猿人へと進化するのです。ですから、進化というのは必ずしも「成長」ではありません。つまり、猿人に進化していく猿は、猿の世界から考えると「落ちこぼれの猿」なのです。これが後に人間になります。

この落ちこぼれた猿も、生きて行くために変化を強要され、「対応」行動します。勿論、急に出来ませんし、「知恵」や「工夫」が必要です。襲われ難い高い場所、暑さ寒さをしのげる場所の確保です。また木にうまく登れない猿は、直立して手を延ばせば高いところに手が届くと。こんなことを繰り返すうちに、二足歩行が出来るようになったのでしょう。これが「猿人」の始まりです。

この猿人が「原人」（200 万年前）になり、「新人」（20 万年前）となり、やがて人間らしくなってきます。そして猿が猿人になる二足歩行は、大きな行動変化をもたらします。それは両手を使う時間が長くなることと、物を抱えて運ぶことが可能となったことです。両手を長く使えると様々な生活物資を作ることを可能とし、石で打製石器を作り採集・狩り・漁にも役立てていくのです。一方抱える行動は、物の移動や運搬を可能とします。

またここで生活に大きな影響を与えるのが、「黒曜石」の発見です。これにより生活は一変します。この石は硬く、薄く加工出来るので、ナイフや斧のような道具へと発展し、採取・狩猟の助けになる。

小冊子「驚きの浜松」150冊を寄贈

この度、八中同窓会は小冊子「驚きの浜松」150冊を中学校に寄贈致します（左記は表紙）。何故驚きの浜松なのか。この浜松は明治以来、様々な発明や商品開発、更には販売に伴う「浜松商法」ともいべき新たな販売手法を編み出してきました。しかるにこれが意外と知られていません。そこで様々な資料を基に、「驚きの浜松」という小冊子に致し

ました。ここに登場する先人たちは、郷土の誇りであり、「無から有」・「無限の可能性」を私たちに教えてくれます。生徒さん是非読んでね。

「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男

連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町 612-402

FAX: (053) 489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

驚きの浜松
（意外と知らないモノ作り浜松のまじり）



「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。